

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

史学専攻 西洋史学分野

3つのポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育目標

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、西洋史学研究の分野における専門知識と研究能力を身につけ、高度な異文化リテラシーをもって先導者として全社会に貢献しうる人材の養成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、修士（史学）の学位を授与する。

資質・能力目標

- （１）西洋史学研究の分野において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、英語の他、西洋史学の各専門分野で必要とされる外国語および古典語を使用して専門的な研究を展開し、その成果を日本語さらには英語等で発表できる力。
- （２）西洋史学研究、あるいは関連分野の研究を内容として日本語もしくは英語等専攻が認める外国語で修士論文を執筆して審査に合格し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域について包括的で深い専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる力。
- （３）英語をはじめとして西洋史学の各専門分野で必要とされる外国語を通じて、異文化の歴史的、文化的特性を理解し、他者と交流を持ち、重要な問題を認識し、それを解決していくための議論や実践に資する高度な異文化リテラシーを備え、研究者、教育者、実務家として国際社会に貢献できる力。
- （４）社会の中で人文学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成

文学研究科史学専攻西洋史学分野（修士課程）では、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、講義演習科目群および指定された指導教員を中心とした個別論文指導から構成される教育課程を体系的に編成する。

教育課程の実施

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせる教育を実施する。

- (1) 文学研究科全体のカリキュラムの方針に則り、修士課程の全在学期間を通じて履修可能な、少人数演習科目を設置する。
- (2) 修士論文の執筆を可能とするため、指導教員の個別論文指導と演習授業を通じ、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度な研究能力および論述力を養う。また、修士論文中間報告会等の機会を設けて、複数の教員から指導を受ける機会を提供する。
- (3) 海外の大学院への正規留学によって取得した単位を修了要件に含めることを、単位数を限って認める。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
- (4) 海外への留学等を念頭において、より柔軟な履修を行えるように全ての科目は半期科目として開講する。
- (5) 領域横断的な研究を可能とするために、慶應義塾大学大学院の他研究科および附属研究所の設置科目、さらに文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目を修了要件として履修することを、単位数を限って認める。

学修成果の評価方法

本研究科史学専攻西洋史学分野の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②休学や退学の状況などを用いる。

また、修士論文は、専攻分野所属の全教員が出席する審査会において、先行研究の十分な学修、史学研究の方法論に基づいた一次史料の適切な利用、論文としての論述の一貫性、研究の独自性などについて、主査および副査（2名）を中心に、厳正に審査される。

資質・能力目標と教育内容との関係

- (1) 西洋史学研究の分野において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、英語の他、西洋史学の各専門分野で必要とされる外国語および古典語を使用して専門的な研究を展開し、その成果を日本語さらには英語等で発表できる力。
→西洋史学の各専門分野を対象とした講義演習科目群を設置し、各専門分野で必要とされる外国語および古典語の能力を高めつつ、研究を展開するために必要な専門知識、専門的研究方法論、一次史料分析能力、思考力および議論構成力を養成する。
- (2) 西洋史学研究、あるいは関連分野の研究を内容として日本語もしくは英語等専攻が認める外国語で修士論文を執筆して審査に合格し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域について包括的で深い専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる力。
→指定された指導教員が中心となって個別論文指導を行い、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度な研究能力および論述力を養う。また、修士論文中間報

告会等、複数の教員から指導を受ける機会を提供する。

- (3) 英語をはじめとして西洋史学の各専門分野で必要とされる外国語を通じて、異文化の歴史的、文化的特性を理解し、他者と交流を持ち、重要な問題を認識し、それを解決していくための議論や実践に資する高度な異文化リテラシーを備え、研究者、教育者、実務家として国際社会に貢献できる力。

→文学研究科や慶應義塾大学国際センターによって提供される留学プログラム、さらには学内外の各種留学制度などを活用した海外の大学院への修士学位取得を目的とした長期留学、単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を推奨する。

- (4) 社会の中で人文学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

→特殊講義科目、特殊講義演習科目、研究科目を組み合わせる履修し、さらに他研究科および附属研究所の設置科目、文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目の履修も可能とし、広く人文科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

- (1) 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、西洋史学の領域全般についての基礎知識を有している。
- (2) 大学院において、何をどのような方法で研究したいのかという研究計画について自ら考え、まとめることができる。
- (3) 自己の研究テーマに関係する一次史料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な外国語や古典語の能力を有しており、分析的な読解、学術的議論を展開できる。
- (4) 少なくとも研究資料を講読するための基礎的な第2外国語の能力を有している。
- (5) 修士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的に考えている。

選抜の基本方針

このような入学者を幅広く受け入れるため、一般入試により選抜を実施する。

- (1) 一般入試

専門科目・指定言語科目・選択言語科目の三科目の試験および口頭試問による選抜であり、以上に述べたようなポリシーに適った学力と問題意識を要求する。